

6月7日 名古屋港管理組合議会 6月定例会 高橋ゆうすけ議員



名古屋港のしゅんせつ土砂の埋め立て 空港沖への埋め立てでなく港内処分を基本に

名古屋港管理組合議会の6月定例会が6月7日に行われ、高橋ゆうすけ議員が名古屋港のしゅんせつ土砂の埋め立て問題について質問を行いました。

航路維持のしゅんせつで毎年30万m³の土砂

名古屋港では、航路やふ頭などを維持するために河川から流入する土砂を毎年30万m³をしゅんせつしポートアイランドに搬入しています。さらに機能強化のために岸壁などの増深のため合わせて毎年60~70万m³の土砂が発生しています。

ポートアイランド南などの計画は見合わせ

ポートアイランドは当初3,000万m³（高さ5.3m）の予定を5,000万m³（高さ18m）まで仮置きする計画になっていますが限界が近づいています。

高橋議員は、国交省が中部空港沖への3800万m³のうめたてを検討していることに対し、港湾計画ではポートアイランド南が1990年に、南5区南側が1981年に示されただけで実施されていない理由をたずねました。

企画調整室長は「ポートアイランド南は事業実施の目途がない」「南5区南側は採算性などで事業化を見合わせている」と答えました。

金城ふ頭約240万m³、第1貯木場北側約147万m³

港湾計画では、金城ふ頭や弥富ふ頭第一貯木場、北浜ふ頭などでも埋め立ての計画がされています。高橋議員は「金城ふ頭などの埋め立て土砂はどこから調達するのか」と質問。建設部長は「港内のしゅんせつ土砂を有効活用する。金城ふ頭に約240万m³、第1貯木場北側に約147万m³を予定」と答えました。

今後の温暖化防止に向けた方針を持って

環境大臣は国交所省にたいし2016年に「しゅんせつ土砂の低減等を検討し、新たな海域処分は可能な限り回避する」という意見を出しています。

高橋議員は「実態に見合わない、大型船を見込んだ岸壁増深などは、しゅんせつ土砂を増やす過剰な開発だと指摘をしてきました今後の開発について、いよいよ見直す時期になってきている。新たな埋め立てをしないためにしゅんせつ土砂の有効活用を考える必要がある」として「しゅんせつ土砂の海域処分を可能な限り回避するための有効活用をすべき」とたずね、当局は「人工干潟の造成に関する実証実験をした」と答えました。



しゅんせつ土砂は港内処分を基本に

高橋議員は、ポートアイランドの仮置き土砂や土地利用計画など課題をよく検討して拙速な開発をしないことや名古屋港内で発生する土砂は港内で処分することを基本すること、他の地域に負担を押し付けないよう求めました。

名古屋港管理組合議会 議案と態度（2018年6月7日~8日）

内容	名古屋市会選出			県議会選出			結果		
	共	自	民	公	減	自		民	公
議長・副議長選挙 (中野県議は欠席 総数29)	議長：○神野博史(自) : 27 山口清明(共) : 2 副議長：○服部将也(民) : 27 高橋ゆうすけ(共) : 2								
監査委員の選任 (議選：岡本善博名古屋市議員)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
監査委員の選任 (識見：黒川和博名古屋市監査委員)	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
議員派遣 ・議長 (ベルギー、オランダ・アントワープ港) ・副議長 (アメリカ・ボルチモア港、カナダ・エバレット港) ・議員1 (かごしま水族館・志布志港・鹿児島港) ・議員2 (台湾 基隆港・高雄港)	●	○	○	○	○	○	○	○	可決

○=賛成 ●=反対 / 共：日本共産党 自：自民党 民：民主党 公：公明党 減：減税日本ナゴヤ